



創学舎主催 私立高校合同説明会、四年ぶりに開催!

去る九月二十三日(土)午後、柏の葉キャンパス駅徒歩二分
 レンスセンター(柏の葉キャンパス駅徒歩二分
 三井ガーデンホテル二階)にて、創学舎主催の「私
 立高校合同説明会」が行われました。一部地域で
 は新型コロナウイルスとインフルエンザのW感染が広がる
 などイベントが無事開催できるのか心配されてしま
 したが、来場者は三百人以上にのぼり盛況のうちに
 幕を閉じることができました。

当日ご参加いただいたのは、初参加の春日部共
 栄高等学校をはじめ十五校の先生方。各高校二十
 五分の時間で、最新ニュース・建学理念・コース
 紹介・学校行事や部活動の案内・大学入合格実績・
 推薦基準など、生徒・保護者が知りたい情報をコ



※ 参加者が多く見込まれる5校は、2回に分けて実施しま
 したが、東洋大学附属牛久高校、流通経済大学付属柏高校などは、
 回によっては百名超の参加者が詰めかける程盛況でした。



※ 来場者には、進学研究会・教育開発出版・エデュケーショナ
 ルネットワークなど協賛各社から、進学資料、クリアファイル、
 ボールペンなどが提供されました。

ンパクトに提供していただきました。ルーム1か
 らルーム4まで四つの会場で同時進行というイベ
 ントの形式もあって、ライバル校同士互いを意識
 しながら先生方のプレゼンも熱を帯びたものにな
 りました。

参加者の立場からいうと、クールな目で高校同
 士を比較できるというのが、この説明会のポイン
 トです。私立高校の説明会で留意すべきは、高校
 の説明会に参加すると公立高校に比して広大な敷
 地や立派な施設に目を奪われて、最初に足を運ん
 だ高校を受験校にしがちなことです。しかし、こ
 の説明会では、高校同士を様々な観点から比べて
 検討することができます。

また、近年創学舎生が受験する高校は広域化の
 傾向にあります。東葛エリアだけでなく、東京・
 茨城・埼玉方面へと受験・進学される方が増えて
 きました。そうした遠方の学校の説明会にあちこ
 ち足を運ぶのは大変です。合同説明会のような場
 で、ある程度ターゲットを絞ってから説明会に行
 くのがよいでしょう。

【参加校(担当者) 一覧(五十音順・肩書略)】

- 江戸川学園取手高等学校(山本先生)
- 春日部共栄高等学校(馬崎先生)
- 光英 VERITAS 高等学校(本間先生)
- 駒込高等学校(山野辺先生)
- 芝浦工業大学柏高等学校(中村先生)
- 常総学院高等学校(櫻井先生)
- 西武台千葉高等学校(福島先生)
- 専修大学松戸高等学校(石川先生)
- 中央学院高等学校(横田先生)
- 土浦日本大学高等学校(小林先生)
- 東洋大学附属牛久高等学校(山崎先生)
- 二松學舎大学附属柏高等学校(坂詰先生)
- 日本体育大学柏高等学校(稗方先生)
- 流通経済大学付属柏高等学校(小山田先生)
- 麗澤高等学校(三宅先生)

(片岡)

まず、全力投球せよ

●この時期になると、受験生はいろいろと落ち着
 かなくなる。勉強が順調に進んでいる者は大丈夫
 だが、順調に進んでいない、あるいはまったく手
 がつかない、また自分ではやっているつもりだが
 成果が出ない、といった者に特によく見られるよ
 うだ。ここでは、彼らに一つアドバイスをしてみ
 たい。ただ、これは受験生に限った話ではないか
 ら、他の人も参考にしてほしい。

●それは、今やっていることに真剣に取り組むこ
 とだ。こう聞けば簡単なことだが、実行するのは
 難しい。たとえば、数学の勉強をしているとき、
 今解いている問題を何とか解けるようにしようと

必死になっているか。「ああ、私が解けないのはこ
 の問題じゃない。もっと難しい問題だ。」などと思
 っていないか。そう思っていたのでは、簡単な問
 題だって解けるようにはならない。そもそも難し
 い問題が解けないから、簡単な問題から解いてい
 るのだ。最初から難しい問題など解けるはずがな
 い。

●また、ある本をやりながら、「彼がやっている本
 のほうがいいかな。」などと考えないことだ。本屋
 に行けば、参考書・問題集は山のようにある。そ
 れを全部やるわけにはいかない。それに、人間が
 一度に解ける問題は一問しかない。まず目の前に
 ある問題を解く。それが第一歩なのだ。もちろん、
 一回解いたぐらいでは自分のものにはならない。
 その問題を見ると解法がパッと浮かび、スラスラ
 と解ける、それぐらい繰り返して解いて初めてそ
 の問題は自分のものになる。時間制限があり、普
 段より緊張するテストでは、そこまでしなければ
 点はとれない。まず、目前の問題に全力投球せよ。
 そして、自分のものになった問題を一つ一つ増や
 していくことだ。

●そう考えれば、自分では勉強していると思っ
 ている時間以外でも、疎かにできないことが分かる
 はずだ。学校の授業中でも、息抜きの時間であつ
 ても、目の前、今やっていることに真剣に取り組
 むのだ。学校の授業中に寝ていたり、友人と話し
 たり、ボーッとしていたり、一体何時間無駄にし
 ているだろう。受験に関係ない科目でも、その授
 業時間は真剣にその科目を勉強しよう。少なくとも
 も、期末テストで特別な時間をとらなくても点は
 取れるはずだ。また、息抜きの時間は、勉強のこ
 とは考えず、心の底からリラックスしよう。

●こう言えば、「先生、私は息抜きに命をかけた。」「などという者が出てきそうだが、もちろん物事には優先順位というものがある。そのとき、そのときでやるべきことには適切な順番がある。それを頭にいれて、今やるべきことに全力投球、最後のひとふんばりをしよう。」
(大場)



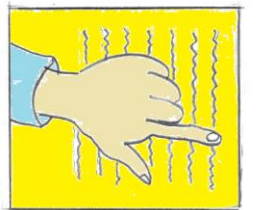
英語の学習のポイント

～音韻的再符号化と音韻ループの利用～

学習のポイントシリーズ(勝手に名付けました)の二回目になります。

九月の国語の回では「作業をしながら文章を読む」ことが説明されていました。大賛成です。英語の長文でも実践してほしいです。ただ、線の引き方、囲み方は、個人の学習段階で差異が生じます。陸上競技で言う「ストライド」に当たる、一度に掴める意味のまとまりには個人差があるからです。「動詞だけでも囲ませたい」、「主語と動詞は囲ませたい」、「前置詞の前で区切りたい」など、講師サイドでも揺れている部分があります(高校生と中三のコースによってはシステム化してあります。中三生は夏から使っている長文読解の副教材を是非参照してください)。実は私個人としては、線を引く目的は、「ポイントを明確にすること」以上に、「目の前の英語の文章に没入すること」、「自分の意識を文章内容につなぎ止めておくこと」にあると考

えています。都内の某有名難関進学校では、英語の長文問題は文を指でなぞりながら読め、という指導をしているようで、やはりそうか、と思いました。



さて、英語学習のポイントですが、文法理解、イディオム強化、リスニング、ライティング、読解力等、様々な項目のどの部分に注目するかというテーマの選択があります。書店に行くと、英語書籍の種類の多さに圧倒されます。ネットでもそうです。「英語学習」と検索すると、ものすごい数(広告も含め)がヒットします。どの視点から論じるのか、どのレベルをスタートラインとして設定するのかによって、学習方法のポイント・力点も違ってきます。今回は、創学舎オリジナルの、ある一つの教材とシステムに絞って説明します。

教材の説明に入る前に、言語と文字についての確認。

そもそも「文字」とは音声を「符号化(coding)」したものであり、その文字を見て音声を喚起するのは「再符号化(recording)」ということになります。この音韻的再符号化に関しては言語学だけではなく、認知心理学等でも研究されています。最近明らかになっているのが、この再符号化(音声化)を支えるメカニズムの中の、短期記憶の構造の重要性です。その短期記憶の説明でよく使われるワーキングメモリの下部構造には、視覚情報を司る部分と、音声情報を司る部分の二つがあります。音声面担当の方を音韻ループ(phonological loop)と呼びます。

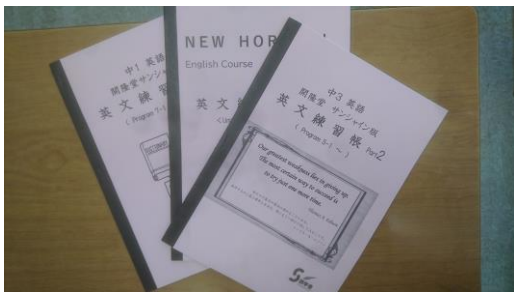
我々は文字を見ると「母語、外国語に関わらずその文字情報を頭(心)の中で音声化して、音韻ループの中に蓄えようとするそうです。頭・心の中の音声を内語:subvocalizationと呼びます。KONJU⇩頭の音声中で音声化して可愛い動物を連想・頭在化できたのではないのでしょうか。では次。KUNO⇩音声化しても「?マーク」にたどりついただけではいけません。

人類はこの音韻ループを言語の獲得・発達とともに進化させてきたと考えられています。言語の発達と関係があるのですから、この音韻ループへの刺激は、語学の学習に欠かせない核心部になります。そこで語学の習得には音読やシャドーイングが有効であるという考え方があります(※多くの考え方の中の一つです。内語が外国語習得のプレキであるという説もあります)。

前置きが長くなりましたが、音読の効用、文字から音韻ループへの変換・刺激は認知心理学からの裏付けもあるということで、先に述べたオリジナル教材「英文テスト練習帳」の説明(宣伝?)に入ります。紙面の都合で手短かに。

① 日本語での意味が理解できている英文の意味の区切れ毎にスラッシュシユを入れてあるので、構造を掴みながら音読の練習ができる。

② 百点を取らないと不合格になるシステムなので何度も書いて練習しなければならず、合格を実現すべく本番と同じテスト用紙を利用して精度



の高いリハーサルが何度もできる。

この二点だけでも、言語学や心理学の先生に褒めてもらえそうです。

さらに、副産物として、英文テスト・英文練習が軌道に乗ってきた学生たちの共通点として、学習への粘り強さ、勉強体力の向上が顕著に見てとれます。実はこの勉強体力、科目を超えて重要な財産になると確信しています。百点合格は実際に大変かもしれませんが、その山を超えた先には、素晴らしい可能性が広がると信じて、頑張つて取り組んでほしいと思っています。

※語学研究グループの中にも、音読肯定派と否定派があり、さらに中立派もあります。また、教材会社がスポンサーになって後援しているケースもあり、多種多様な現状です。
(五日市)

難関私立対策講座、十月開講!

創学舎では、受験校が確定し私立高校の過去問演習に取り掛かるうというこの時期、毎年「難関私立対策講座」を開講しています。専修大学松戸や芝浦工業大学柏など、難関私立高校の問題は質・量ともに公立入試とのギャップが甚だしく、特別な対策が必要です。創学舎では、難関校の問題傾向の分析と精査された問題演習を通して、充分な演習量を確保すると共に「難問へのアプローチ法」や「時間配分」などについての確かなアドバイスを行います。

【英語・数学 四コマ×七回(集団各教室)】
【国語 三コマ×二回(柏教室にて合同実施)】